令和6年度学校評価 **結果・学校関係者評価**

学校名

佐賀県立伊万里高等学校

1 前年度評価 結果の概要

- ・進路指導をとおして目標や目的意識を持たせることで学習意欲を高めさせたい。
 ・特に、1年次から家庭学習時間を確保させるためには学習に対する意識付けや目標を持たせることが大切である。
 ・教職員の働き方改革については、現状の把握をもとに、業務のスリム化や業務の分担の最適化を進める必要がある。
- 普通科改革(新学科立ち上げ)の準備を進めるとともに、地域の期待に対しさらに応える学校づくりを推進する。
- 2 **SAGA** スクール・ミッション 学校教育目標
- 普通科改革を推進し、高い志を持つ生徒を県内外から呼び込み、学校の新たな魅力づくりに挑戦する。
 ・教科学習に加え、地域との連携のもと多様な学びに挑戦することで、地域の期待に応え、社会に貢献できる有為な人材を育成する。
 「伊高に集い 伊高で学ぶ 伊高は君が主役 」 志高く、謙虚に学び、情熱に満ち、最後まであきらめない

3 スクール・ ポリシー

ア 理想を高く掲げ、上級学校への進学を目 指して自ら学ぶ意欲をもつ生徒を求める。 イ 心身ともにたくましく、文化の創造や産業の 振興など、社会や地域に貢献する気報と情 熱に満ちた生徒を求める。 ウ 学校の核として積極的に活動することができ、部活動等に積極的に取り組もうとする意 欲と能力のある生徒を求める。

アドミッション・ポリシー

- カリキュラム・ポリシー
- ア 魅力ある授業を実践し、教科への興味関心を高め自ら学ぶ姿勢を養成する。
 イ 主体的に学ぶ態度や思考力・表現力・判断力の育成を重視する。
 ウ 総合的な探究の時間、ホームルーム活動を通して、生徒自身が主体的に考え、行動し、将来望ましい自己実現ができるようにキャリア教育を推進する。エ すべての教育活動を通して、人権・同和教育に対する正しい知識や人権感覚を身につけ、あらゆる差別・いじめが起こらないように積権的に取り組む。
- グラデュエーション・ポリシー
- ア 自然を尊び郷土を愛し、人としての優しさに満ちた豊かな人間性と、自らの生き方に向けてよりよく生きる自主自律の精神を育成する。(自律)
 イ 個性と創造性を伸ばす個に応じた教育を進めるとともに、高い志を持ち、自ら判断する」、自ら学ぶ力と学んだことをもとに発信する力を育成する。(前途)
 ウ 互いの存在を認め合い敬意をもって接し、皆が安心して過ごせるような配慮や気づきのできる人材を育成する。(友愛)

A:十分達成できている B:おおむね達成できている C:やや不十分である D:不十分である

本年度の 重点目標 地域の期待に応えることのできる 普通科進学校を目指す。

- ① 志を高める教育
- ② 学力の向上と進路保障 ③ 自己有用感の育成
- ④ 地元との連携強化

の4つの観点で、魅力ある 唯一無二の誇り高き学校作りを目指す。

重点取組内容	・成果指標			中間評価		最終評価	ī.		
共通評価項目									学校運営協議会委員の評価
	重点取組		具体的取組	VM 10 mm	中間評価	***	最終評価	評価	意見・気づき等
評価項目	取組内容	成果指標 (数值目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	A10-614-A	ртіш	
	○魅力ある授業を実践し、教科への興味関心を 高め自ら学ぶ姿勢を養成する。 ○思考力、判断力、表現力を身につけさせる。 ○少人数指導等を通じて基礎学力の定着を図 る。	○学校評価アンケートにおいて、「あなたは伊万 里高校の授業に満足している。さちらかというと 満足している」と回答した生徒80%以上	・各学期末の授業評価アンケートにおいて生徒の意見やニーズを把握し、授業や課題の出し方に活用する。 ・授業と連動した効果的な課題の提示 ・家庭学習時間の増加につながる指導の研究	В	近年、定員割れが続き、入学段階から学力差がより顕著になっている。 個別最適な学習を実現するためには授業や課題だけでなく、classi等の活用 で家庭学習を充実させるといった工夫も考えられる。 また、今年度から評価方法を変更しているが、評価のために学ぶのでなく、 生徒が主体的に学んだ結果を評価できるように、さらに改善していきたい。	Α	・学校評価アンケートにおいて、「伊万里高校の授業に満足している42.0%、どちらかというと満足している53.4%」であった。教値目標の達成はできているが、自発的に学習に取り組む生徒は多くなく、授業方法や課題の工夫を実践していく必要がある。・来年度から本校では新学科が始まるが、近年の大学入試の変遷に対応できるよう、思考力・判断力・表現力を向上できるよう様々な学習方法を試行できる環境づくりに努めたい。	Α	・数値目標を十分クリアできているた 評価とする。
●学力の向上	○授業時間の確保に努めるとともに、家庭における予習・復習の大切さを理解させ、積極的な学習態度を育成する。	〇生徒の学習習慣の確立(学年+1時間の家庭学習時間の確保)	・文理選択やコース選択などの機会を用いて進路意識を高め、 進路希望とそのために必要な学習の意識を高める。 ・各生徒の志望進路に応じた長期的・計画的な指導の工夫	В	1学期学習時間調査(3年生163分/日、2年生95分/日、1年生98分/日) 2学期学習時間調査(3年生205分/日、2年生90分/日、1年生84分/日) 学期ごとのや習時間調査において、3年生は受験生らしく学習時間が伸びているが、1・2年生は学習時間が全体的に減少している。視野を広げ、他地区の生徒との競争意識を持たせて学習する意欲を喚起することも必要であると感じた。また、進路意識を高めるためにもキャリア教育を充実させる必要を感じた。	Α	・各学年の模擬試験結果では、上位の生徒が頑張り、中間層の成績向上など良い点も 挙げられるが、上位層と下位層が2極化しており、一斉指導の難しきを感じている。そ れに伴って、学習時間も2極化している。進移を見据え、競争意識を高めるなど家庭学 習時間を増加させる取り組みを学校として何かやっていきたい。 ・次年度からはコース選択がさらに細分化される。進路意識を高め、頑張って目標に臨 む体制づくりが必要となる。	Δ	・現状に満足せず、より良くしていこする学校側の意向が伺える。 ・明確な達成数値目標を設定して評生かすとよい。
		〇学校評価アンケートにおいて、「あなたは伊万 里高校の授業に満足している・どちらかというと 満足している」と回答した生徒80%以上	・5分前行動を意識させ、朝活動・授業準備を早めに終わらせると ともに落ち着いた雰囲気で始めることを定着させる。 ・週初めの朝活動は学習時間の記録や、学習内容を振り返る時間に充て、週ごとの計画を明確化させる。 ・教材研究や生徒支援の時間を確保するための業務の効率化	В	1年学年: 朝活動で家庭学習時間記録の指導を継続した。入学時に比べ増加しつつあるが、進路・目的意識の希薄な生徒については、教科・分掌と連携し、考査や模試の結果に繋げたい。 2年学年: 朝活動では落ち着いた雰囲気で始められたが、2分前着席やClassiの入力による学習の記録が定着しなかった。計画的に学習を進められた生徒は非常に少ないのが現状である。 3年学年: ノーチャイムにより時間を意識して行動できるようになったが授業準備までできるよう、引き続き指導していく。クラッシーによる学習・睡眠・スマホ時間の調査では記録が不十分な生徒も見受けられた。	A	・学校評価アンケート結果「授業に満足42.0%、どちらかというと満足53.4%」 1年学生、週末の家庭学習時間は平均3時間前後と徐々に量と質が向上している生徒 が増えてきている。試験の結果に直結していない部分もあるが、次年度に向けて継続 指導を行う。受験生としての自覚を早期に確立させたい。 2年学生、後半になって落ち着いてきたが、特定の生徒の授業準備が十分ではない。 学学程の生徒は受験生としての意識が出てきた。受験に向けて、見通しを立てて計 画的に勉強することなど、ホームや学年集会や学年通信を通して指導を継続していく。 3年学生、ソーチャイムにも大分慣れ、時間を意識した行動ができるようになった。年明 けあたりから、やっと本気になった。安験対策ができるようになった。体調の自己管理が できない生徒が増えてきた。	١.	・学年ごとに、育みたい学力や学習 の伸長を目指して努力されているこ 伺える。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への 思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する 心など、豊かな心を身に付ける教育活動	〇学校アンケートにおいて、「あなたは充実した学校生活を送っている」と回答した生徒が80%以上	・全校・学年集会・始業式・終業式等で、豊かな心を身に付ける 講話を実施 ・各クラスで適宜、社会性や倫理観を育むような指導の実施 ・HR活動の時間を使った人権同和教育の実施	В	・始業式・終業式、全校集会等で、人権や人としての在り方について、様々な事例を用いて啓発できた。 ・各HPで、思いやりや社会性を身に付ける話をタイムリーに行った。 ・校則も段階的に適切な変更を加え、生徒・教職員いずれにも過ごしやすい環境づくりに努めた。	А	・本校で充実した学校生活を送っているかの質問に、そう思うと回答した生徒は58%、ややそう思うが37%、合計95%で目標値をおおむね達成することができた。 ・生徒が校外で他人を援助するなどの善行があったと電話が入ることがあった。	Α	・数値目標を十分クリアできているだ 評価とする。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組 の充実	○「いじめを許さない教育が行われているか」という生徒への質問に対し、「そう思う」が80% ○いじめ解消率100%	・少なくとも3回/年はアンケートを実施し、いじめの積極的な認知と、解決に向けた迅速な支援を行う。 ・面談週間等を通じて生徒の悩みの早期発見に努める。 ・学年団との定期的な情報交換(週一回)	В	・クラッシーを用いて、いじめアンケートを実施した。生徒・保護者からの訴え については、迅速に確認し、いじめ対策委員会を開催し、組織的に対応する ことができた。 ・生徒情報交換を月2回程度のペースで実施することで、生徒が抱える課題 の早期対応ができている。今後も継続していく。	Α	・「いじめを許さない教育が行われているか」という生徒への質問に対し、「そう思う」が73%、「ややそう思う」が22%で、目標は概ね達成した。なお、いじめの覚知・認知の件数は18件。学年団、いじめ対策委員会、教育相談等で迅速に対応できた。いじめ解消100%に向け取組継続中。・各学年の教育相談担当係が毎週行われる学年会議に出席し、生徒情報の共有を迅速に行うことができた。また、その内容を他の先生がに伝達する場を持つこともできた。	Α	・数値目標を十分クリアできているだ評価とする。 ・「いじめ解消100%」は、年度内の9 は不可能なため目標としては要検記 は。
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒85%以上 ●「毎朝朝食を食べてくる」生徒90%以上	・生活状況調査、食に関する意識調査の実施 ・食育に関する通信の発行	C	・食育に関する啓発活動がほとんどできておらず、生徒の食育に対する意識 は薄いと想像される。3学期には通信を発行するなど行い、生徒の意識向上 を目指す。なお、2年生については外部から依頼の食生活習慣のアンケート を実施した。結果を共有して今後の指導に生かしたい。	В	・学校評価アンケート結果: 健康に良い食事「している79%、どちらかというとしている11%」 毎朝の朝食「食べている55%、どちらかというと食べている35%」 ・全校集会をとおして、朝食の重要性を生徒に伝えることができた。 ・食育だよりを配信し、啓発活動を行うことができた。	В	・中間評価からの改善が見られた。
●業務改善・教 職員の働き方 改革の推進	●業務効率化の推進と、時間外在校等時間の 削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間 の上限を遵守する。 ○時間外勤務を昨年度比で10%以上削減す る。	・定時退勤日、および学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の設定 ・休暇(年次休暇等)取得促進の呼びかけ	В	・閉庁日数は多めに設定できたが、国スボ等のため休めない職員がいた。・先生方の事務量が多く、定時退勤や休暇取得の呼びかけが十分ではない。引き続き、機をとらえて改善を促していく。	В	・学校閉庁期間を例年より多く設定し、部活動休養日設定の意識付けや年次休暇等の取得促進について呼びかけができた。しかし時間外勤務時間の昨年度平均は369時間、今年度は370時間で目標の達成には至らなかった。(4月~1月の10か月間で比較)	В	・引き続き呼びかけや職場の雰囲気 りを。
●特別支援 教育の充実	○生徒の発達段階に応じて、好ましい人間関係 を育てる。○自己理解を深めさせることでの の成長の援助を図る。○生徒一人ひとりの教育 上の課題について職員間の共通理解を図り、支 援が必要な場合はあらゆる機会をとらえ実践す る。	う。 ○学年団との連携を密にして生徒や先生方の力	・スクールカウンセラーのカウンセリングを生徒や先生方に推奨する。先生方の指導へのアドバイスや適格なサポートができるように、学校全体の連携を図る。	В	・各学年の教相担当が生徒情報を把握し、必要な生徒はSCに繋げきめ細かに対応できている。 ・SCによるカウンセリングは、生徒、保護者によく活用していただいている。 今後も各担任、学年主任、保健厚生部で生徒の様子を観察し、情報交換をしながら、生徒をサポートしていきたい。 ・一方で、特別な支援が必要な生徒に対して担任や教科担当者との協議が 遅れ、迅速な対応ができていない面もあった。生徒の情報を密に共有していくことが今後の課題である。		・課題を抱える生徒の情報を保健室や各学年から入手し、保護者やスクールカウンセラーと連携し、対応することができた。 ・しかしながら、担任との連携がうまくとれない場面もあり、今後の改善が必要である。 ・職員に対する研修会も実施できた。さらに実りがあるものにするべく、内容を工夫することが課題となった。	В	・スクールカウンセラーなど、専門家協議内容のポイントを振り返りに生てみては。・校内支援委員会の度合いやそのなどを評価に生かしてみては。
本年度重点的に	- 取り組む独自評価項目 重点取組				中間評価				学校関係者評価
評価項目	重点取組内容	成果指標(數值目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	TIMATIM 進捗状況と見通し	達成度	実施結果	評価	意見や提言
H I Per Pe III	★「SAGAスマート・ラーニング」事業を推進し、 ふるさとの自然と文化に親しむことで、ふるさと	OSAGAスマートラーニング事業のアンケートに おいて、満足度70%以上を目指す。 「ふるさとに関する本校の教育に満足している	・カブトガニ産卵地清掃活動に取組み故郷の自然に親しむ。 ・総合的な探究活動において、故郷の自然や文化を学ぶ。 ・伊万里学講演会で伊万里の焼物やカブトガニについて学ぶ。 ・校外学習体験発表会でふるさと再発見の探究成果を発表する。	(評価) B	・カプトガニ産卵地清掃活動は、3年生を中心に希望者を募って実施した。海岸に漂着したたくさんのゴミを回収することが出来て、有意義な活動となった。 ・探究活動は、学年毎にテキストを使って学年主体の活動を行うことが出来た。改善点を洗い出し、3年間を見通した計画を模索していきたい。	(評価)	・ふるさとに関する本校の教育に満足している、またはややそう思うと回答した生徒が 90.9%であった。学年が高くなると、その割合が確実に高くなっている。1年次の伊万里 のカブトガニの講演会、2年次の伊万里のやきものの講演会、3年次の、本校卒業生が	٨	・数値目標を十分クリアできているた評価とする。 ・引き続き学校の特色として生かす耳組みを
★唯一無二の 誇り高き 学校づくり	ましい自己実現ができるようにキャリア教育を推進する。	足度70%以上を目指す。 〇「伊万里高校を中学生に勧めることができま すか?」・・・の問いに対し、生徒および職員の肯 定的回答で各80%以上を目指す。	・職業セミナーを開催し、適性や能力・資質を学ぶ。 ・大学ジョイントセミナーを開催し、自己の在り方・生き方と結び付けたテーマや学問を発見する。 ・自己の在り方・生き方に直結する学問・学科について、志望動機や課題解決の方法を記述する。	В	・職業セミナーについては、弁護士、市役所、看護師、SUMCO、名村造船所から5名の講師を招聘し実施した。複数の講座を拝聴できたらなお進路選択の参考になったと感じる。 ・大学ジョイントセミナーは、4大学、12名の講師を招聘し様々な学部・学科の講座を開設することが出来た。特に佐賀大学から7名の講師を招聘できたのがよかった。		・本校のキャリア教育に「満足している、やや満足している」と回答した生徒が92.8%。 大学ジョイントセミナー、職業セミナー、キセキトーク等で希望する進路や職業の話を聞くことで、確実に進路実現に役立てている。特にジョイントセミナーでは、12種類の講座を開設し、生徒の希望講座を2つ受講できたのはキャリア教育効果が大きかった。・・「伊万里高校を中学生に勧めることができますか?」・・・の問いに対し、「勧められる、どちらかというと勧められる」と回答した割合・・・生徒84%、職員89%		・数値目標を十分クリアできているた評価とする。 ・引き続き外部との連携を拡充していた。
	★◎進路保障、進路指導の充実 ・個人面談や進路意識を高める希望調査、オー ブンキャンパス参加の契励、進路講演会等を実施して生徒の進路意識を高めることで明確な目標を持たせ、その実現のために努力させる。	○進路講演会と職員研修を企画する。	・オープンキャンパスに参加する前の学年での指導計画の作成 ・講演会講師の選定と日程調整 ・8月末に7月進研模試の分析会、3年生の年3回の進路検討会 の企画	В	・予備校によるオンライン職員研修を国語、英語、数学、地歴、理科で実施できた。 ・また、7月進研模試の分析会として「進路情報交換会」を1、2年生で実施し、各教科担当者と生徒の現状について共通理解することができた。3年生の進路検討会も現時点で予定通り2回実施し、3年生の進路実現に向け有意義を情報交換ができた。・オープンキャンバスについてはアンケートの集計中。	Α	・職員研修、進路検討会に加え、1.2年生の学力・模試分析会である「進路情報交換会」を新たに実施でき、3年生だけでなく、1,2年生の学力や進路希望など教科担当・学年全体で共有できた。 ・また、オープンキャンパスへの参加も1年生95.6%、2年生85.0%と目標値を上回り、進路意識が高まった。	Α	・数値目標を十分クリアできているが評価とする。 ・引き続き進路実現へのモチベーシ 及び学習意欲の向上のためご指導 だきたい。

6 総合評価 次年度への展望 ・各評価項目において職員は生徒の学習状況や成績、進路希望、学校生活における心身の健康状態等について、それらの成果及び課題をよく把握しようと努めている。さらに、課題の克服や改善に向け、適切な目標を立て、共通理解のもとで具体的な指導や取り組みを展開している。
・学校の魅力化と活性化を目指す。高い志が集まる学校へ。・・・西部地域の普通科進学校として、生徒、保護者、地域の期待に応えるため、難関大学や国公立大学を軸としたさらなる進学実績向上を目指し、新学科の創設をはじめ、外部との連携や授業改善等、学校全体の活性化や魅力化につながるよう検討や準備を引き続き進める。
・普通科改革を軌道に乗せ好循環へ。・・・進学実績のさらなる向上により、学校の魅力を増幅・活性化させ上位層を伊万里高校へ呼び戻す。より高度かつ発展的な学びを通して高い学力を身につけさせる。伊万里高校といえば進学。地域に求められる進学実績を継続的に向上させて好循環を生み、ゆくゆくは市外県外からも支持される学校にする。